

サブ・クラスター経過報告 「中部圏の産業集積の革新についての研究」

2016年3月17日(木)@101教室

プロジェクト参加ゼミ: 出口ゼミ4年生チーム・河合(篤)ゼミ3年生チーム

プロジェクト担当教員: 出口将人・河合篤男

プロジェクト協力者: 松本正義(大学院OB)

探求課題と方法

- 「産業集積の再活性化のための方法」を仮説的に導く(課題)
- 集積の構成メンバーに対するヒアリング調査、および域内商工会、企業およびイベント等への参加観察(方法)

作業仮説と分析枠組み

- 「全域が一気に再活性化するわけではない」(ラフな作業仮説)
- 「域内の一部企業による突出に起点」(ラフな作業仮説)
- 「突出は域内完結ではない」(ラフな作業仮説)
- ネットワーク論(分析枠組み)・・・「強連結と弱連結」
(Granovetter,1982)

域内企業の比較分析

- シバタテクノテキス（新事業展開レベル・・・実験段階）
- 堀江織物（新事業展開レベル・・・一部事業化）
- 吉田染色（新事業展開レベル・・・ドメイン転換）

いくつかの視点

- ネットワークの形成プロセス
- 強連結と弱連結のボーダー
- 企業における新事業開発フェーズとネットワークとの関係性

今後のリサーチ

- 3社の経営者を中心にヒアリング調査を展開しているが、それ以外のネットワーク参加者の視点も必要となる（参加のインセンティブ等）